

**「市道東雲広路および臨港道路東雲広路整備基本計画（原案）」に対する
パブリックコメント（意見公募）手続の実施結果について**

案 件 名	市道東雲広路および臨港道路東雲広路整備基本計画（原案）
募 集 期 間	令和5年(2023年)4月3日（月）～5月2日（火）
担 当 課	都市建設部都市計画課
意見提出者数	個人5名（39件）

○ 「市道東雲広路および臨港道路東雲広路整備基本計画（原案）」に対する意見の概要と市の考え方

※ 意見の概要については、原文を要約して載せています。

No.	意見の概要	市の考え方
1	本パブリックコメントについて、函館市や部局のトップページに掲載がなく、一般の方に全く知られていないと思うが、デザイン協議会などには知らせているのか。	本パブリックコメントの実施については、市のホームページに掲載するとともに、市政はこだてにより周知を図ったほか、沿線にお住いの方々や事業所をはじめ、近隣町会や商工会議所などの関係団体にも計画の内容を説明し、ご意見をお伺いしております。
2	本案序盤は非常にネガティブな内容で、本計画で駅前が変わるんだ、明るくなるんだという期待感が生まれてこない。	本計画序盤の1章と2章は、函館駅前・大門地区の概況や東雲広路の課題を抽出・分析しているものです。
3	西部地区と大門地区は、まちづくりの関心の高いエリアだが、東雲広路は、盲点のようになっていて、今からPR戦略を工夫しなければ、出来上がった時に世間から注目されず、賑わいが生まれにくいのではと危惧する。	東雲広路に賑わいを生むためには、整備後の使われ方が重要と考えており、市内部のほか、関係団体や近隣の事業所などと相談しながら検討していきたいと考えておりますことから、今後の参考とさせていただきます。
4	キッチンカーは良いアイデアだが、今や至るところでキッチンカーが活躍しており、本計画が実現した頃には、「キッチンカーいいね」とはならない恐れがある。	今後、計画を進めるにあたり、参考とさせていただきます。
5	東雲広路ができた時に、真っ先に市役所職員が使うということを考えてみてはどうか。部局に縛られず、役所内の元気の良い人達に声をかけ、「東雲広路を盛上げ隊」的なワーキンググループをつくるなどしてはどうか。	今後、計画を進めるにあたり、参考とさせていただきます。

No.	意見の概要	市の考え方
6	駅前地区の夜は、大門エリアが賑わっており、はしご酒が主流となっている点に期待は少しありますが、大門横丁から東雲広路まで足を伸ばすか、平時はなかなか厳しい。夏はビアガーデンやワインマルシェなど開催して欲しいが、オープン初年にどれだけ、毎週のようにイベントがあつて賑わいをつくれるかではないか。	東雲広路に賑わいを生むためには、整備後の使われ方が重要と考えており、市内部のほか、関係団体や近隣の事業所などと相談しながら検討していきたいと考えておりますことから、今後の参考とさせていただきます。
7	周辺にホテル群があり、宿泊以外の人も出入りできるレストランやバーもあるので、夜はホテル関係者と連携を深め、宿泊者が屋外に出て涼みながら、ワインとピンチョスを楽しめる雰囲気を目指すというのはいかがでしょうか。	東雲広路に賑わいを生むためには、整備後の使われ方が重要と考えており、市内部のほか、関係団体や近隣の事業所などと相談しながら検討していきたいと考えておりますことから、今後の参考とさせていただきます。
8	東雲広路は、市街地と西部地区との移動道路という認識で、立ち寄り或いは憩いの場としての認知度が低いので計画書にあるとおり回遊性やシンボル設置は重要だと考える。	居住誘導を進める上で必要な「賑わいある魅力的なまち」を創出するため、また、ガーデンシティ函館の実現を目指し、東雲広路を回遊性と滞在環境に優れた函館を代表するシンボリックな広場空間へ整備したいと考えております。
9	現在計画が中断しているグリーンプラザと同時進行させることにより、東雲広路→グリーンプラザ→駅前通り・駅前花壇→開港通り・海岸通り（埠頭散策路整備済）への回遊型散策コースが完成することになる。	まちなかへの居住を促進する都市構造再編集集中支援事業により、函館駅前・大門地区において、東雲広路のほか、市道公園通2号（通称：高砂通り）の整備も行っているところであり、これらの路線の整備により、函館駅前から国道を経由した連続性と回遊性を創出することとしております。
10	今の東雲広路は、通り抜け通路の意味合いが強く、その認知度を高めるにはシンボル施設の設置が不可欠で、「ガラスの箱」の施設整備は大変興味がある。他に類を見ないような施設で、日中のたまり場として特に夜間ライトアップして浮かび上がる姿は想像しても楽しみである。できれば風力・太陽光など、自然エネルギーに依存できるようにするとシンボル性が一段と高まると思う。	風力や太陽光といった自然エネルギーの活用は、本計画においても重要な要素としておりますことから、今後、計画を進めるに当たり、参考とさせていただきます。
11	ベニバナトチノキは、その花の独特の色合いがあり、開花している期間も長いように思えるので、計画しているBブロックには多く植栽し、その樹木にシンボル性を持たせたら良いと考える。	四季折々の草花が楽しめる空間としたいと考えておりますことから、今後、計画を進めるにあたり、参考とさせていただきます。

No.	意見の概要	市の考え方
12	<p>維持管理を継続するために適切な費用を配分することは重要である。常時手入れをし、清潔さを保つことにより人は集まり、ボランティアの協力も得られると思われる。指定管理者に支払う維持管理費は、他の施設と比較して妥当か。見合った費用を負担していないと直ぐに劣化していく。</p>	<p>東雲広路が、人が集い、憩える場であり続けるためには、継続的なソフト事業の実施のほか、適切な維持管理費の確保が重要でありますことから、その財源確保に努めてまいりたいと考えております。</p>
13	<p>東雲広路を計画の通りの集客を意識した整備を行うことで、結果的に函館駅前・大門地区をより分断してしまうことが予想されるが、そのあたりの見解はいかがか。また、本計画の立ち位置と認識に関して、函館駅前・大門地区全体としてのランドスケープとしての計画あつての本計画になるかと思うが、地区全体の計画はどうなっているのか。</p>	<p>本事業の目的は、市街地再開発事業と連携し、都心部ならではの生活利便性と賑わいのある魅力的な居住環境の整備・居住支援を一体的に行い、相互に事業効果を高め合いながら、これをインセンティブとした都市機能・居住機能の誘導を図り、持続可能な都市構造への再編を図るものであり、今後につきましては、関係機関、団体等と連携しながら、地区全体のまちづくりが一体的に進められるよう検討してまいりたいと考えております。</p>
14	<p>函館市役所から函館駅前・大門地区が分断している現状を踏まえた場合、東雲広路を整備したとしても、市役所前電停から函館駅前電停までの空間は連続性に乏しく、函館市役所及び東雲広路から、函館駅前・大門地区間の移動は目論見どおりは起きず、それぞれの行き来がない状態になってしまうことが予想される。</p>	<p>電車通りである国道 279 号については、現在、国による無電柱化事業が行われており、整備に併せて歩道にカラー舗装を施すことになっておりますことから、完成後は良好な景観が確保され、連続性が生まれるものと考えております。</p>
15	<p>東雲広路で集客することによって、今までグリーンプラザを利用していた客層が函館駅前・大門地区から分断された東雲広路だけで用事を済ませ、函館駅前・大門地区には行かなくなってしまい、函館駅前・大門地区の消費が冷え込むことまで予想できる。</p> <p>この対策として、東雲広路は集客施設の整備はせず、道路の整備などの最小限にとどめ、その分の集客施設はグリーンプラザに設置することで、空間の連続性を保つという形の方が、よっぽど函館駅前・大門地区の発展に繋がると考える。</p>	<p>東雲広路は、周辺にお住まいの方のほか、金森倉庫群などの観光地と函館駅や周辺ホテル群を往来する観光客の方々が、日常的に立ち寄り、憩える場所として整備するものですが、駅前通やグリーンプラザとの相乗効果により、函館駅前・大門地区全体の活性化につながるよう検討してまいりたいと考えております。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
16	<p>中央分離帯は、バスケットボールやスケートボードのできる場所とし、増水時は遊水地・調節池として使える場所を提案する。</p> <p>函館市役所は、緊急時に職員が集まる場所にも関わらず、津波や増水時にはリスクの高い場所となっていることから、そのリスクを和らげる場所、防災の拠点としての機能を考えるべきではないか。最近、災害時には遊水地・調節池として使い、平時は遊べる公園として開放している例も多く、市役所も近いため、管理しやすい場所として、職員と一般市民の交流の場としては良いかと思う。</p>	<p>東雲広路に遊水地・調整池を設けることについては、本広路を含めた周辺地区は、海拔が低く、地下水位が非常に高いことから、遊水地や調整池を設けることが困難な地区となっております。</p> <p>しかしながら、広場に防災・減災機能を持たせることについては、重要な要素となりますことから、今後、計画を進める中で検討してまいりたいと考えております。</p>
17	<p>噴水について、これまでも閉鎖したエアポートオアシスや市民の森、函館公園、昭和公園、新中野ダムの公園の例を見るに、水質維持と10年単位のメンテナンス計画の設定がとて重要となってくるので、先述の先事例の研究結果も加味した、雪国ならではの老朽化とリニューアルも視野に入れたメンテナンス計画の策定を求める。</p>	<p>人が集い憩える場として、「水の流れや音」は重要な要素の一つと考えておりますことから、冬季の使い方を含めた維持管理の手法について、検討してまいります。</p>
18	<p>南池袋公園のような、芝に直接座って、もしくは椅子が用意されている、マットを敷いて思い思いに楽器の演奏ができ、子供が走り回っても安心なオシャレな柵などで、安全性を確保しつつ、楽しめる空間にしていきたい。また、観光客が立ち寄る想定であれば、レンタサイクルなどの手配など、観光コンシェルジュや簡単な観光案内の機能を有した場所をカフェに併設することで、ゆったりと観光の計画も立てられる場所になると良いかと思う。他にも親子で楽しめるものとしては、網で囲った空間であれば、ドローンを飛ばして遊べるようにできる日の設定も喜ばれるかもしれない。</p>	<p>東雲広路に賑わいを生むためには、整備後の使われ方が重要と考えており、市内部のほか、関係団体や近隣の事業所などと相談しながら検討していきたいと考えておりますことから、今後の参考とさせていただきます。</p>
19	<p>東雲広路は、函館朝市への空間との連続性を考慮できる場所となっているが、函館朝市は、おおむね観光客向けの地区であるため、一般の函館市民の利用者は多くない地域と言えるので、そのあたりの回遊性の向上案もあると良いかと思う。</p>	<p>まちなかへの居住を促進する都市構造再編集中支援事業により、函館駅前・大門地区において、東雲広路のほか、市道公園通2号（通称：高砂通り）の整備も行っているところであり、これらの路線の整備により、函館駅前から国道を経由した連続性と回遊性を創出することとしております。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
20	<p>本計画では、環境面への課題提起がない。</p> <p>東雲広路は三方を海に囲まれた地区であり、常に強い海風に晒される立地環境にある。函館は全域で天候や気温、冬場の道路凍結など「歩いて楽しめる」環境とは言いがたく、この点について本計画では言及がない点が気になる。</p> <p>この「環境面の課題」に真剣に取り組むことは、本計画だけでなく函館市のまちづくりや都市計画、高齢化対策、子育て支援、ひいては観光促進にも大きなメリットがあると考える。</p> <p>上記を踏まえ、本計画に対し「ネオ・アーケード」を提案する。</p> <p>アーケードとは商店街に設置される天蓋で、天候に関わらず買い物を楽しめるようにという仕掛けだが、これをSDGsに配慮した先進技術・素材で進化させて歩行空間を設置するというアイデアである。</p> <p>函館市のように土地環境の厳しい場所では、天候の影響を受けない場の創出を人工的に行う必要があるが、札幌市のように地下街にすると函館市の観光資源でもある景観を楽しむことができなくなってしまう。</p> <p>景観を楽しみながらも天候に左右されず心地よく歩ける歩行空間の実現が、「ネオ・アーケード」となる。</p> <p>道路や緑樹を整備しただけでは「歩いて集まれる場」にならないことは、函館駅前の広場やハコビバで検証済みかと思う。駅前広場やハコビバに人が集まらないのは風が強く寒いからで「一刻も早く屋内に入りたい」と思わせてしまうのは、【景観】という唯一無二の観光資源を持つ函館にとって、とても勿体無いことだと常々感じている。</p> <p>本計画ではぜひ天候への対策を検討していただき、今後の市政に反映していただくことを期待する。</p>	<p>東雲広路の整備において、悪天候への配慮として、全天候型で本広路のシンボリック施設でもあります「木の箱」と「ガラスの箱」を配置することとしています。</p> <p>ご意見のようなアーケードの設置による歩行空間の整備は、東雲広路沿線が商店街ではないため、本計画へ反映は難しいものと考えておりますが、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
21	<p>函館駅前・大門地区への居住誘導も目的としているようだが、東雲広路の電車通りから港側は函館の代表的な歴史を残す観光地であるのに対し、電車通りの大森浜側は住宅地であるが、観光地に近いためか駐車場になっている土地も目立つ。</p> <p>このエリアの空家状況などに関する詳細を知らないが、居住誘導が目的ならば大森浜側のほうでないだろうか。大森浜側には、旭広路があり、予算などが許せば土地はある。「居住地」と「観光地」を共存させることはかなり難しいのではないか。</p>	<p>東雲広路の整備は、函館駅前・大門地区に居住を誘導するため、当該地区における回遊性の創出を図ることとしております。</p> <p>計画中の東雲広路のほか、今年度から市道公園通2号（通称：高砂通り）の整備を行うところであり、これらの路線の整備により、函館駅前から国道を経由した回遊性の創出を図ることとしております。</p>
22	<p>Aブロックの全体的な印象は、市役所の前庭で市職員の休憩所。</p> <p>また、観光客もアクセスしやすいB・Cブロックとは電車通りで分断されていて、視覚的な連続性は作れるが、人・物の移動という点での問題点はないのだろうか。</p>	<p>Aブロックは、主に市役所も含めた近隣の事業所やそこに訪れた市民の利用を想定しております。他のブロックへの移動については、交差点内に横断歩道を新たに設置するなど、円滑な移動が図られるよう、検討してまいります。</p>
23	<p>Aブロックの遊び場が電車通りに近いが、電車の音で乳幼児がびっくりしないのだろうか。また幼児などの安全は配慮されているのだろうか。</p>	<p>計画において東雲広路に求められる機能として「安全で安心な空間」を掲げておりますことから、乳幼児も含めた利用者の安全対策について、十分検討していくこととしております。</p>
24	<p>市役所の反対側の旭広路にあるほうが「安らぎと遊びのゾーン」として相応しいと思う。</p>	<p>旭広路は、本整備計画の対象から外れておりますことから、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>
25	<p>キッチンカーのスペースに出店するのは誰を想定しているのだろうか。利用料を払えば誰でも可能なのか？</p>	<p>想定している特定の店舗はなく、どなたでも利用できるスペースとして考えています。</p>
26	<p>Bブロックは、「権太引揚者上陸記念碑」がなくなり、函館らしさの一部が減少している。現状の位置で支障があるのであれば、歴史的意義・関係者の意見など了解調整を受けた上で、Aブロックへの移設を検討してはどうか。</p>	<p>「権太引揚者上陸記念碑」については、東雲広路外に移設することで、関係者も含め、現在、協議・調整しているところです。</p>
27	<p>函館を代表する広場に「ガラスの箱」を設置する意味が分からない。好ましいとは思わないが「レンガも使った箱」ならまだわかる。「箱館」の「箱」なのだろうか。カッコいいデザインのオブジェなのだろうか。</p>	<p>人を東雲広路へ呼び込み、滞留させる仕掛けとして、「ガラスの箱」といったシンボリックな施設が必要なものと考えており、当該建築物には、情報発信や飲食、トイレといった機能を持たせたいと考えております。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
28	トイレが広路の軸線上にあるが、利用する人や周囲にいる人は気にならないのだろうか。	トイレは、広路利用者のほか、付近を通行する市民や観光客に必要なものと考えており、その衛生管理を含めた維持管理費の確保に努めてまいりたいと考えております。
29	デザインとして軸線上にオブジェを配置するのはわかるが、オブジェに機能を持たせようとするデザインが難しくなる。	詳細のデザインについては、通行する人の目に留まるデザインとなるよう、今後検討していきたいと考えております。
30	<p>Cブロックの「ウェルカム・ゲート」とあるように、観光客を意識した場合、東雲広路の顔は港側と思われる。</p> <p>「ウェルカム・ゲート」越しに港を背景とした写真撮影ポイントとあるが、google ストリートビューで見ると、陸橋が低いせいか底面がかなりの面積を占める映像になりそう。パノラマ機能による撮影か編集が必要になる。</p> <p>「ウェルカム・ゲート」に「出入口のサイン」でなく「記念写真のフレーム」を求めないのであれば、その設置位置、撮影ポイントを再考したほうがよくないか。また、現状ではゲート近くを人が通りやすいのでシャッターチャンスのタイミングがとりにくいのではないか。</p>	<p>当該オブジェクトは、函館港に入港するクルーズ客船利用者など、観光客の目に留まるよう配置するもので、出入り口のサイン的な要素もありますが、写真撮影のフレームとして摩周丸を背景とする場合、当該フレームがともえ大橋の橋桁を隠す効果もあるものとして考えております。</p>
31	<p>まったくの個人的感覚だが、ステップガーデンは、花壇・噴水のスペースが大きすぎないか。港側から見ると奥のスペースを感じにくいし、ゲートに近すぎる。意地悪く言えば「ようこそ函館へ。でも観光客のみなさんは時間もないでしょうから、奥まで行かないで花でも見て行ってね」という感じがする。</p>	<p>Cブロックのステップガーデンについては、視界的な「とおり」を阻害しないよう高さを低く抑えるほか、A・Bブロックには、シンボルとなる「木の箱」と「ガラスの箱」を配置し、視覚的な各ブロックへの誘導を考えております。</p> <p>今後においては、案内板の表示の仕方などについても工夫してまいりたいと考えております。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
32	<p>臨港道路湾岸線の陸橋の下は、今回の計画の対象外となっているが、整備・改修・美化などが必要でないか。</p> <p>「いかにも公衆トイレ」とプレハブ物置が無造作に並び、駐車場は雑草が生え用途不明な棒が立っている。</p> <p>おしゃれなフェンスは、工事用単管やロープと同じ役目をはたし、新設されてから徐々に関心が薄れていったことを物語っている。</p> <p>観光施設への案内板にはセンスが感じられず、注意や駐車場の料金を表示する看板は主張が強すぎ、なぜか道路工事の資材が放置されている。</p> <p>シーポート公園側はがんばっていても、道路の対面がこれでは、観光客も興ざめするのではないか。</p> <p>この状況は、google ストリートビューで全世界の人が閲覧可能だ!!!何とかしなければ!!!と思うのは私だけだろうか。</p>	<p>いただいたご意見に関しましては、関係部局にお伝えいたします。</p>
33	<p>この場所での函館らしさとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東側端部は、臨港道路湾岸線の陸橋が「ゲート」状になっていて、舗装された広場につながっている。さらに、広場からは朝市、連絡線、ベイエリアと呼ばれる観光施設へつながっている。 ・西側端部の市役所庁舎は、外壁がレンガで、ベイエリアの倉庫群と基調があっている。 ・現状では、この両端部を、ちらりと見えるアイストップ、ピクチャーウィンドとして利用するとともに、港の雰囲気を読み込むことも函館らしさを出すことに有効でないか。 	<p>今後、計画を進める中で参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
34	<p>「広路の周囲を育てる」考えとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広路の北側と南側は、商店街や戸建て住宅街とは違った、大きなスケールで計画された建物が建設され、広路はゆったりした都会的な独特の雰囲気生まれかけているよう感じられる。 ・コンパクトシティの考えを基にして、この場所にとって適度な用途・規模の建物を誘致し、この雰囲気を育てられないか。 ・コンパクトシティは、類似・共通するものを効率的に統合することも目的のひとつと考えられるが、用途・規模によってはゾーニングによって分離する必要があるのではないか。 ・この場所では、イベントの開催なども考慮すると、高層のマンション（共同住宅）など避けたほうがよさそうな用途の建物もある。 ・マンションは入居者全体としての意見をまとめることが難しく、下階等に商業施設などを併設すると、入居者と商業施設との意見調整も必要になり、商業活動に足かせがはめられ、また、建物の改修・建て替えには相当な時間と労力なども必要になる。近年の老朽化したマンションの状況を踏まえる必要がある。 ・他にもコンパクトシティを目指して行った施策の失敗例や問題点があるので、参考にすべきだと思われる。 	<p>今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
35	<p>若者が集まりみんなで育てる広路として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 函館になかった都会的な空間の内にある「公開された空地」 ・ そこに臨港道路湾岸線の向こう側にある広場と港の雰囲気流れ込む。 ・ 都会的なものにあこがれる若者も集まり、インスタ映えする装置があり、ダンスや路上ライブなどのストリートパフォーマンスなどが行われる。 ・ 各利用者がダンボールの箱などを加工・装飾して作った一時的なステージ背景や装置が現れては消えて行き、空間に変化を与えるとともに、その出来栄を競い合う。一定規模以上の持込や設置は許可制とし、リアカーの貸し出しも受けられる。 ・ 常設するものは厳選され、ものは多くないが、低い生垣に囲まれ腰掛けると周りからの視線が気にならなくなるベンチなどがあり、クリスマスなどのイベント時にはイルミネーションの並木が現れるデートスポットに。 ・ 近くの小路や電車通りには、おしゃれなブティックや小物店・楽器店、画材も扱う文房具店などの店があり、函館生まれの文化を他の地域に発信する。 ・ 函館で青春を過ごした人々が、「あなたも！ 私もあそこで・・・」という共通の話題で話が盛り上がる場所で、市外の人に自慢できる場所。 ・ 東雲広路全体では持て余しそうなので、海に近いCブロックだけでもこのような空間にできないか。 ・ また、ここだけでなく、市内の他の地区にもその地区にふさわしく、若者が集まり、発信できる広場があってもいいのではないか。 ・ 函館に住む大人は、青春時代にどんな空間が欲しかったのだろう。 ・ 年齢でなく、活力を持った「若者」の想像力や行動力に期待したい。 	<p>東雲広路に賑わいを生むためには、整備後の使われ方が重要と考えており、市内部のほか、関係団体や近隣の事業所などと相談しながら検討していきたいと考えておりますことから、今後の参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
36	<p>(前頁の続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館以外の地に進学・就職など考えている若者、また、すでに離れてしまった人々の意見も聞いてみたい。 ・ただの空き地でも、いろんな人のそこでの思い出の積み重ねがあれば、立派な広場といえないか。 	<p>東雲広路に賑わいを生むためには、整備後の使われ方が重要と考えており、市内部のほか、関係団体や近隣の事業所などと相談しながら検討していきたいと考えておりますことから、今後の参考とさせていただきます。</p>
37	<p>観光との共存として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日は利用する市民も少ないので閑散としていそうだが、ただの集合・待ち合わせ場所ではなく、観光客が「ここが〇〇の△△なんだ。私も・・・」と疑似体験などをしてみたくなるような場所。 ・撮影された画像には、函館を示すハデな看板はないが、全体の雰囲気として「函館」とわかる場所。隠れミッキーのように五稜郭の形などがしこまれているというのも面白いのではないか。 ・古い表現ではあるが、「クールでかっこいい」函館の一面を感じさせる場所。 ・ベイエリアとも連動し、新たな観光スポットも目指したい。 	<p>東雲広路に賑わいを生むためには、整備後の使われ方が重要と考えており、市内部のほか、関係団体や近隣の事業所などと相談しながら検討していきたいと考えておりますことから、今後の参考とさせていただきます。</p>
38	<p>広小路・旭広路との連結案として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所周囲の歩道は狭くて魅力に乏しいので、敷地の一部を歩道の拡張に提供できないか。 ・東雲広路・広小路・旭広路は、それぞれ異なる周辺環境を持った空間なので、特長を生かした活用を期待したい。 ・特に広小路は、商店街としての活性化、地域改良などが行われてきたが、さらなる検討が期待されている。 ・また、若松広路の活用も期待したい。(たとえば、一部を観光バスなどの駐車場にするなど) ・近年よく使われるPDCAという考え方からも、時代的な変化や失敗点などを整理(C)し、より好ましい方法を期待したい(A)。 	<p>今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	市の考え方
39	<p>ランドマークとしての市庁舎は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の市庁舎は1983年（昭和58年）に建設され、近年耐震改修工事が行われた。 ・鉄筋コンクリート造の建物は耐用年数が47年で、現庁舎は建設から40年を経っており、10年以内に建て替えなどの議論が行われると思われる。 ・現庁舎は、建物内部に大きな吹き抜け空間をもった、大きな建物である。 ・周囲の建物と比較して大きいことと、敷地の位置、レンガによる外装などの要因もあり、函館のランドマークになっているということは良くも悪くも疑いようがないと感じている。 ・保存するべきだというつもりは毛頭ないが、広路が交差し、函館を象徴するこの敷地をどのように利用すべきかを含め、市民の多数が納得する案を検討する準備が必要でないか。 ・また、余談であるが、東雲広路を含めた広路が市庁舎の高層階から見下ろす庭や、景観等への配慮に欠ける敷地に利用されないことを祈っている。 	<p>今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p>